

令和 8 年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高のそれぞれの学びの段階において、
英語によるコミュニケーションの能力を確実に育成する。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業者が設定する言語活動の質的向上を実感している。児童の必要感を伴う目的・場面・状況が設定されるようになり、児童が「聞きたい」「伝えたい」と思う内容を扱う言語活動が見られるようになった。
- ② AI を含む、ICT機器の利活用を探る姿勢が見られるようになった。帯活動における個人学習の時間で活用する例が多く見られた。

未だ改善が必要な点

- ①児童にとって楽しめる活動に留まっている言語活動例が多く、言語活動をととした資質・能力の育成につなげることが課題である。
- ② 県教育委員会が編集している「英語専科担当教員実践事例集」へ提供される言語活動の領域数を比較すると、「読むこと」「書くこと」に自信をもって指導にあたる教員が少ないと捉えている。

2. 要因分析

- ①英語専科担当教員連絡協議会や全県指導主事会議において、言語活動を設定する際の要点や事例を繰り返し共有したり、協議したりしたことで、目的・場面、状況が児童の必要感を伴う設定となり、指導改善につながったと考えられる。
- ②「英語専科担当教員実践事例集」において、ICT機器の活用事例に関する項目を設定したことで、様々な活用法が共有されたためと捉えている。

- ①言語活動をととして資質・能力を育成していく意識の定着が十分でないことが要因として考えられる。指導と評価を一体的に捉え、実践していく意識の醸成を行っていく必要がある。
- ②公開授業研究会で参観する領域や「英語専科担当教員実践事例集」における「読むこと」「書くこと」の領域の記載数の少なさから、日々の実践を客観的に振り返る視点が乏しいことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①引き続き、英語専科担当教員連絡協議会や全県指導主事会議において、各地域における実践や地区教育課程研究会の研究成果について共有したり、指導と評価の一体的な取組におけるよさを意味付けしたりしながら積極的に発信していく。
- ②英語専科担当教員連絡協議会等で、各参加者の授業実践を共有する際に、ICTを活用した目的と活用方法、活用したことにより深まった指導と評価の具体について明らかにする構成をとり、より一層の指導改善を図る。

- ①「言語活動をととした資質・能力の育成」を推進していくため、英語専科担当教員連絡協議会や全県指導主事会議において、情報提供に加えて、ワークショップ形式のように参観者が主体となって、得られた情報と持っている情報から自身の指導と評価の在り方の改善を図る機会を設定していく。
- ②「読むこと」「書くこと」の領域を扱った指導と評価に自信をもって取り組むことができるよう、英語専科担当教員連絡協議会や全県指導主事会議において、「読むこと」「書くこと」の領域を扱った実践の共有や協議を行っていく。

令和 8 年度 神奈川県 英語教育改善プラン

小・中・高のそれぞれの学びの段階において、 英語によるコミュニケーションの能力を確実に育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：49.7%⇒R8：55%）

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

①英語教育実施状況調査の生徒の英語力の状況において、CEFR A1レベル相当の中学校3年生の割合が増加した。

（R6:46.7%⇒R7:49.7%）

②同調査において、英語教師の英語力に関し、CEFR B2レベル相当の教員が増加した。

（R6:46.5%⇒R7:66.4%）

①実際に授業を参観したり、域内の市町村教育委員会からの聞き取ったりしたこと、生徒の英語力の高まりを実感していたため、英語教育実施状況調査結果との乖離に課題意識をもっている。また同数値は、地域によって大きな差が生じている。

②R5全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査の結果から、「英語の勉強は好きですか」の設問に肯定的な回答をした児童・生徒の割合に差が見られた。

（児童69%⇒生徒56%）

2. 要因分析

①言語活動において、目的や場面、状況の設定が、より生徒の必要感を伴うものとした指導力の向上が要因であると捉えている。

②生徒の英語力の高まりは、英語教員の英語力が影響すると、様々な会議体において継続して伝え続けてきたことが、教員の実感するところとなり、自己研鑽の機運が高まったためと捉えている。また、検定試験等の助成制度もその一役となっているとも考えている。

①英語検定試験3級取得者数で回答するように、該当する検定資格者数でのみ回答している可能性も、一因として想定している。

②小学生と比較すると中学生の肯定的な回答の割合が低いことから、小・中学校で円滑な接続ができていないことが原因の一つであると考え。円滑な接続に向けた取組の具体が明確になっていないことが要因の一つとなっていると捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②教員の指導力や英語力をさらに高めていくために、引き続き、全県指導主事会議や英語授業力向上研修において、各地域における実践や地区教育課程研究会の研究成果について、授業づくりの要点を明確にしながらか発信していく。

①生徒の英語力を見取る質を高め、指導改善を図るために、各領域におけるCEFR A1レベル相当の姿を複数モデルとして示すことを行っていく。また、各会議や協議体において、モデルとして示した姿を活用しながら、モデルでは示しきれていなかった姿を考えることとし、CEFR A1レベル相当の姿をイメージする力を高め、日々の生徒の姿を見取る質も高めていく。

②小・中学校の円滑な接続に向けて、研究会や協議会において、柱となる内容を伝えたり、取り組みの具体を考える協議をとしたりしながら、小・中学校の連携の質や機運を高めていく。特に、各領域における指導する方法の接続を、小・中学校の教員で考えていくことができるよう、各自治体に沿った学びの接続となるよう伴走支援していく。

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和 8 年度 神奈川県 英語教育改善プラン

小・中・高のそれぞれの学びの段階において、英語によるコミュニケーションの能力を確実に育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R7 : A2以上 56.4%、B1以上 27.2% ⇒ R8 : A2以上 58.3%、B1以上 34%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増 (R6:55.3% ⇒R7:56.4%)
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増 (R6:25.7%⇒R7:27.2%)

- ① CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 ⇒改善したものの、目標に未到達
- ②英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている学校の割合 (R6:45.0% ⇒ R7:27.9%)

2. 要因分析

- ①②教科等別教育課程説明会や公開研究授業、教育課程調査等を通じて、「指導と評価の一体化」を推進した結果、各学校のCAN-DOリストに基づいた「何ができるようになるか」の視点からの学習活動の実施の意識が向上したことが要因と捉えている。
- ①個別最適な学びと協働的な学びへの意識が未だ不足、教室での学びの時間の多くを知識・技能の習得にかけている学校が依然としてあることが要因と捉えている。
- ②知識・技能の習得をさせることに比重を置きあまり、教室内での言語活動が依然不足していることから、教師の英語を即興で使用する場面が不足していると捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②
○「個別最適な学びと協働的な学び」の推進による言語活動の充実教科等別教育課程説明会にて、生徒同士や生徒・教師間の「言語活動」を通して指導する必要性や、そのために必要な英語力を高めることの重要性を、より一層発信していく。
また、公開研究授業や、教育課程訪問の際などには、引き続き個別に学校へフィードバック（指導と助言）をしていく。
○英語教育推進の中核的人材の育成の推進
英語教員海外研修実施事業（TESOL研修）にて、英語力及び指導力を向上させ、公開研究授業等を通じて成果の普及を行う。
また、総合教育センターが実施する「英語教育中核教員育成研修」にて、コミュニケーション能力向上のための英語に関する高度な言語知識・技能を高めるとともに、多文化理解・国際理解を深めることで、県全体及び学校・地域の中核となって生徒のコミュニケーション能力を高める実践を効果的に行うことのできる教員を育成する。
○「グローバル教育研究推進校」の研究・事例の普及
本県におけるグローバル教育研究推進校 5 校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、授業等での生徒によるAIの活用（練習量の増加や動機付けの強化に向けた効果的な実践）、授業等での教師によるAIの活用（教材・課題作成の実践、パフォーマンステストに向けた活用）を研究し、その研究成果・事例を、公開研究授業等を通じて普及する。

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

神奈川県教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		55	53.8	55	55.3	56.6	56.4	58.3		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		30	23.4	30	25.7	32	27.2	34		35	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		60	54.7	60	55.5	70		75		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		66	30.2	66	37.7	70		75		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	90.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	88.1	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		75	79.1	80	79.7	80	82.3	80		80	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		70	28.9	70	45	70	27.8	70		70	

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		50	42.7	50	46.7	55	49.7	55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		75	71.2	75		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	96.6	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	92	100		100		100		100	
		公表(%)	80	75.4	80		90		100		100	
		達成状況の把握(%)	80	71.4	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50	44.9	50	46.5	50	66.4	70		75	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		74	59.9	65		70		75		80	

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	76	80		82		84		85	
		公表(%)	40	55.7	50		58		60		65	
		達成状況の把握(%)	60	60.3	62		63		64		65	